

株式会社ドロイズ 様 株式会社アニマ 様

映像制作のグローバル化とコラボレーションを加速する、 S k e e d の純国産高速データ転送技術

映像制作の現場において、年々高精細化し肥大し続けるコンテンツ容量と、そのコンテンツを格納したメディアの物理搬送に伴うコスト負担および所要時間への対応は、事業を拡大しグローバル展開を図るようになると一層大きな課題となって立ち現れる。映像制作会社ドロイズとアニマは、それぞれのビジネスモデルの違いから、2つの S k e e d 社高速データ転送製品を上手く使い分けている。

課題

●両社とも映像制作事業のグローバル対応に伴い映像コンテンツの転送課題に直面

<ドロイズ>

- ・シンガポールに制作拠点を設け、タイにも協力会社があるが、ともに転送速度には不満があり、特にタイは ADSL 回線ということもあり、何らかの方策が必要

<アニマ>

- ・特に大連では回線帯域が 4Mbps しかなく、回線品質も悪いため数 GB のファイルを送るのに FTP で丸 1 日かけるような状況
- ・現地は送達完了までずっと待たねばならず、プロジェクト自体の進捗にも影響

検討プロセス

●両社とも以前から S k e e d の高速データ転送製品をソリューションとして検討

<ドロイズ>

- ・CM など短期のプロジェクトが多く、顧客や関係者など転送先の変更が頻繁にあるため、クライアントソフトが不要で、Web ベースで簡単に操作が可能な SFM を選定

<アニマ>

- ・大連と本社間の転送テスト結果と、他の米国製高速転送ツールやオンラインストレージ製品との比較検証も踏まえつつ、コストパフォーマンスに優れた SilverBullet を選定

導入効果

<ドロイズ>

- ・タイに SFM で転送を始めた当初は、その高速転送性能に現時外注先企業が『この日本の技術は何なのか』と、大変驚かれたほど劇的に改善

<アニマ>

- ・中国・大連と本社間の転送時間は少なくとも 1 / 3 以下に短縮
- ・国内の顧客への納品もこれまで 10GB を超えた場合は HDD をバイク便で送っていたが、今は気にせずネット越しに転送



■コラボレーションを最大化する上でネックとなったコンテンツ制作時のデータ転送の課題とは

一般に映像制作会社と聞くと一括りに捉えがちだが、同業者であっても得意分野が異なり、緊密な協業・補完関係を築く場合がある。ドロイズとアニマの関係がまさにそれである。ドロイズは短編作品や CM の制作を主に手掛ける一方、アニマは長編作品を得意として映画、テレビシリーズ、アニメーション、ゲーム関連などの映像制作を中心に取り組んでいる。

オフィスも中目黒と高田馬場と離れていたが、アニマがフロア拡張を行う際に、以前より拡張を考えていたドロイズも転居することになった。そこから交流が深まったたといふ。実務では「長編と短編では制作ノウハウも異なるので、競合関係になることは殆どなく、互いに技術交流を行いながら事業を進めている」(アニマプロジェクトマネージャー / 開発主任西野憲司氏)といい、固い友好関係で結ばれている。

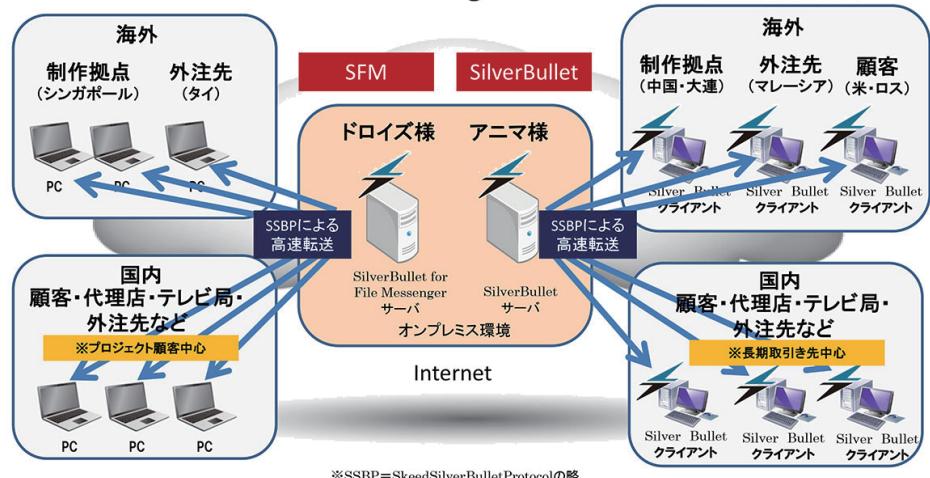
ただ、映像制作を生業とし、事業を拡大する過程で生じる課題には共通したものもある。その 1 つが事業のグローバル化に伴う映像コンテンツの転送である。

アニマでは、4 年前から中国・大連に拠点を築き、現在ではマレーシアの制作会社へのアウトソーシングや米国の企業との取引なども行っている。特に大連では回線帯域が 4Mbps しかなく、かつ回線品質も悪いため数 GB のファイルを送るのに FTP で丸 1 日掛るような状況にあった。「送り元の日本側はアップすれば終了ですが、現地は届き終わるまでずっと待たねばならず、プロジェクト自体の進捗にも影響が出していました」(同)

また、ドロイズはシンガポールに制作拠点を設け、タイにも協力会社があるが、ともに転送速度には不満があり、特にタイは ADSL 回線ということもあり、何らかの方策が求められていた。

株式会社ドロイズ様 株式会社アニマ様

SilverBullet for File Messenger/SilverBullet利用構成図



株式会社ドロイズ
取締役 COO 三宅 貴士氏



株式会社アニマ
プロジェクトマネージャー / 開発主任
西野 憲司氏

株式会社ドロイズ
本社： 東京都新宿区高田馬場三丁目 23番1号 YSKビル3階
設立： 2008年7月
資本金： 3,000万円
従業員数： 40名
業務内容： 映像制作（CM、短編コンテンツ中心）

株式会社アニマ
本社： 東京都新宿区高田馬場三丁目 23番1号 YSKビル2階
設立： 1997年10月
資本金： 1,200万円
従業員数： 113名（2017年4月現在）
業務内容： 3dsmax, MAYAなどを使用した3DCG制作及びコンピュータソフトウェア制作

■中長期間の取引先が多い事業に適した SilverBullet、プロジェクト毎に構成メンバーが変わる事業に適した SFM

この対策において、実は両社とも S k e e d の高速データ伝送製品が 1 つの解になるという“目算”は当初より立てていたという。ドロイズの取締役 COO 三宅氏は「海外進出を行う以前に、S k e e d の営業から紹介を受け SilverBullet のデモも見ていた。その時は時期尚早だったが、その後もまめに情報を収集しながら検討はしていた」といい、アニマ・西野氏も「SilverBullet が発売されたという情報を入手し、社内で検証もしていました」と語る。大連と本社間で何度もテストしたところ「かなり効果が出た」（同）ことから、他の米国製高速転送ツールやオンラインストレージ製品との比較検証も踏まえつつ、最終的にコストパフォーマンスに優れた SilverBullet を選択した。

ドロイズも同様の考えの下、SilverBullet を選定したが、同社はアニマと異なり、Web ベースの高速ファイル転送ソフトウェア SilverBullet for File Transfer（以下、SFM）を選んだ。その理由は長編作品が主で長期間同じ取り引き先とのやり取りが多いアニマに比べ、ドロイズは CM など短期のプロジェクトが多く、顧客や関係者など転送先の変更が頻繁にあり、利用者が都度・変更されるケースが多い。そのため、クライアントソフトが不要で、Web ベースで簡単に操作が可能な SFM がより適しているとの判断であった。

■大連 - 日本間で 1/3 以下の転送時間短縮とバイク便利用コストの削減を実現。さらにタイではその高速転送性能に現地企業から驚きの声も

導入後の効果については両社とも期待通りの効果がみられるという。
「タイに SFM で転送を始めた時は、現時の外注先企業が『このツールは何なのか』と、あまりの高速性を示した日本の転送技術に大変驚かれました。やはり海外で回線の細いところでは特に抜群の効果ができるというのが実感です」（ドロイズ・三宅氏）
「中国・大連と本社間の転送時間は少なくとも 1 / 3 以下に短縮されています。また、国内の顧客への納品もこれまで 10GB を超えた場合は HDD をバイク便で送っていましたが、今は気にせずネット越しに転送しています」（アニマ・西野氏）
国内外の制作拠点、外注先、さらに顧客先に向けて今後も S k e e d の高速データ転送技術が映像制作事業を加速する。